

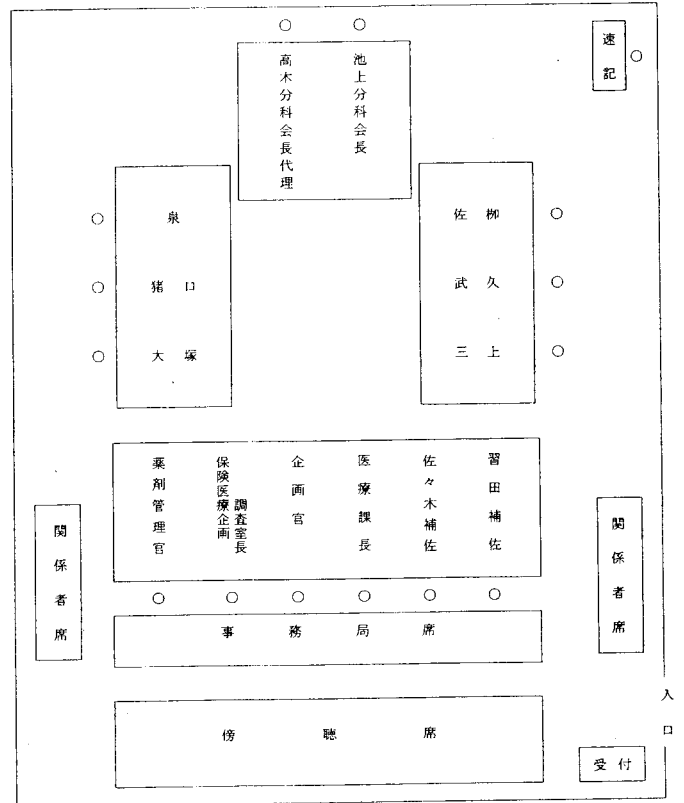
平成21年度

第4回 診療報酬調査専門組織・慢性期入院医療の包括評価調査分科会

日時：平成21年7月29日（水）13:30～15:30  
場所：厚生労働省専用第21会議室（17階）

議事次第

- 1 慢性期入院医療の包括評価調査分科会の課題等について
- 2 平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査について
- 3 平成20年度一般病棟で提供される医療の実態調査について
- 4 その他



診調組 慢-1  
21.7.29

中医協 診-2  
21.7.15

診療報酬調査専門組織・慢性期入院医療の包括評価調査分科会委員一覧

<委員>

氏名	所属等
◎ 池上 直己	慶應義塾大学医学部教授（医療政策・管理学）
◎ 泉 キヨ子	金沢大学医薬保健研究域保健学系 看護科学領域・臨床実践看護学講座教授
◎ 猪口 雄二	医療法人財団寿康会病院理事長・院長
◎ 大塚 宣夫	医療法人社団慶成会青梅慶友病院理事長
◎ 佐柳 進	独立行政法人国立病院機構 関門医療センター院長
◎ 椎名 正樹	健康保険組合連合会理事
◎ 高木 安雄	慶應義塾大学大学院教授
◎ 武久 洋三	医療法人平成博愛会博愛記念病院理事長
◎ 三上 裕司	特定医療法人三上会総合病院東香里病院理事長

◎分科会長 ○分科会長代理

慢性期入院医療の包括評価調査分科会の課題等について

1. 短期

平成22年診療報酬改定に向け、既存のデータを用いて、以下の検討を行う。

- 患者分類の妥当性の検証
- 各医療機関における分類の適切性の検証
- 提供されている医療サービスの質の検証

2. 中・長期

医療療養病床と機能が近接している病床等を含め、慢性期医療に係る調査・分析を行う。

その際、慢性期医療の定義・範囲を明確にしておく必要があるが、現時点では、さしあたり一般病床の一部から介護保険施設の一部までが想定される。

当面は、このうちの一般病床に係る部分から検討することとし、その結果を踏まえて、慢性期医療の定義・範囲についてもあらためて検討する。

一連の検討結果は、適宜、基本問題小委員会に報告し、そこでいただいた意見をさらに反映させながら慎重に調査・分析を進めることとしたい。

平成21年度慢性期入院医療の包括評価調査分科会の進め方について

平成21年7月8日  
診療報酬調査専門組織・慢性期入院医療の包括評価調査分科会  
分科会長 池上直己

1. 背景

- 平成15年3月に閣議決定された「医療保険制度体系及び診療報酬体系に関する基本方針について」において、慢性期入院医療については、「病態、日常生活動作能力(ADL)、看護の必要度等に応じた包括評価を進めるとともに、介護保険との役割分担の明確化を図る」とされた。
- これを受けて、平成15年6月より、中医協基本問題小委員会において慢性期入院医療に関する議論が開始された。その際、長期の入院患者に対する新たな支払方式を検討するに当たって適切な調査データを用いる必要があるとされたことから、新たに調査専門組織を設置することとなり、当分科会が発足した。
- 当分科会は、中医協基本問題小委員会の付託を受け、平成15年から17年にかけて慢性期入院医療の包括評価を行うための調査及び検討を行った。
- そうした検討を実施していた平成17年に、医療制度改革に関する議論が開始された。同年12月に発表された医療制度改革大綱において、「慢性期入院医療等の効率化の余地があると思われる領域については、適正化を図る。」とされ、医療と介護の機能分業を推進する観点から療養病床を転換・再編するの方針が打ち出された。また、後述のとおり、平成18年度医療制度改革関連法において、介護療養型医療施設が平成24年3月末までに介護保険施設等に転換されることとなった。
- 当分科会が調査データに基づいて提案した医療区分等による患者分類は、平成18年度診療報酬改定における包括支払制度の導入にあたって採用されたものの、医療区分1に関しては入院医療を必要としないという政策判断がなされ、診療報酬についても十分にコストが評価されていない点数が設定された。このことについて、各委員からは、当

分科会の調査結果が適切に活用されなかったのではないかと疑問の声が上がった。そこで分科会長は、こうした声を分科会の総意として基本問題小委員会に報告した。

○その後、平成18年から19年にかけて、当分科会は改めて実態調査を実施し、この9区分の患者分類自体は妥当であることを再確認した。

2. 平成21年度第1回分科会(5月27日)における指摘事項

- 最後の開催である平成19年6月以来、分科会は約2年間開催されなかった。その間、療養病床再編に関する全国目標数の発表や介護報酬改定、急性期における平均在院日数の急激な短縮など、慢性期入院医療を取り巻く状況が大きく変化した。
- 急性期医療における平均在院日数の短縮傾向に伴い、慢性期医療を必要とする患者が増加するのではないかと。
- 同様に、介護保険施設において、医療処置を要する入居者が増加している。これらの方々を今後どこで受け止めていくのか。
- 一般病床にも、療養病床と同様の慢性期の患者が入院している実態があるのではないかと。

以上の議論を通じて、当分科会においても、「単に、医療療養病床における包括評価としての患者分類を提案してその妥当性等を検証するだけでなく、一般病床等との関係を含め、慢性期医療に係る中・長期的な課題についても幅広く議論すべきではないか。」という点で意見の一致をみた。

3. 分科会としての提案

分科会では、まず、本来の役割である患者分類の妥当性の検証とともに、各医療機関における分類の適切性及び提供されている医療サービスの質の検証を行う。その上で、中・長期的な課題として、医療療養病床に留まらず、慢性期医療全体を横断的に把握し、こうした実態を踏まえて議論し、その結果を基本問題小委員会に報告することとした。

平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査に係る  
第2回分科会での指摘事項について

1	患者特性調査については、地域性を考慮した分析をすべきではないか。	回答済み。 (第2回分科会資料「慢-6」)
3	患者特性調査の患者分類の分布等、対象病院全体(全病院)と平成18年度調査と共通の病院とで傾向が違うため、施設特性の比較をすべきではないか。	回答済み。 (第2回分科会資料「慢-7」)
4	質の評価が平成20年度改定で新たに導入されたことを踏まえ、Q1も更なる分析を検討すべきではないか。	提出された評価票を用いて、Q1と共通する項目を分析中。
6	一般病床であっても、診療報酬の算定において平均在院日数を考慮しなくしてよい病床(特殊疾患病棟入院料算定病棟等)をすべて入れて算定した、一般病床の平均在院日数を示して欲しい。	回答済み。 一般病床の平均在院日数 19.0日 (平成19年度病院報告より) 注) 病院調査による一般病床の平均在院日数は、診療報酬上の特殊な病棟も全て含んだ平均在院日数が算出されている。

医療療養病床は、患者の状態像によって医療区分1~3に分類される。最も状態が「軽い」と判断されている医療区分1を分類する試案を日本慢性期医療協会が作成。

医療区分1の分類

- 【医療区分1-5】
  - ・重症意識障害(JCS100以上)
  - ・一分一ニナル(寿命1ヶ月以上)
  - ・肝不全(胆水濃度、NH4Cl120mg/dl)
  - ・CKD(クレアチニン6mg/dl以上)
  - ・喘息重症発作
  - ・仮性球麻痺(経管栄養)
  - ・急性呼吸(7回/日以上)
  - ・全麻手術後1ヶ月以内
  - ・その他の感染症(GRP5以上、顆粒球減少、ウイルス性など)
  - ・胸水、心電図異常
  - ・浮腫、幻覚
  - ・離体外路症状(重症)
  - ・認知度(M)
  - ・自殺企図
  - ・難治高血圧(治療にもかかわらず日中最高血圧180mmHg以上を呈する例)
  - ・心不全(高度非代償性)
  - ・SAB、AVB(血圧JSS)
  - ・徐脈(40以下)RonT、af.(稼500/min以上)
  - ・脱水(BUN50mg/dl以上)
  - ・低栄養(Alb2.5g/dl以下)
  - ・Hb7g/dl以下
  - ・BNP(1000以上)
  - ・血糖(随時血糖200mg/dl以上、HbA1c8以上)
- 【医療区分1-4】
  - ・重症意識障害(JCS30以上)
  - ・肝不全(胆水濃度、NH4Cl100mg/dl以上)
  - ・CKD(クレアチニン4mg/dl以上)
  - ・認知度(W)
  - ・脱水(BUN40mg/dl以上)
  - ・低栄養(Alb3g/dl以下)
  - ・Hb8g/dl以下
  - ・BNP(500以上)
  - ・血糖(随時血糖150mg/dl以上、HbA1c7以上)
- 【医療区分1-3】
  - ・意識障害(JCS20,10)
  - ・虚ターミナル(寿命6ヶ月)
  - ・認知度(III)
  - ・脱水(BUN30mg/dl以上)
  - ・低栄養(Alb3.5g/dl以下)
  - ・Hb9g/dl以下
  - ・BNP(100以上)
- 【医療区分1-2】
  - ・区分1-3,1-4,1-5,以外でADL区分3の人
- 【医療区分1-1】
  - ・区分1-3,1-4,1-5以外でADL区分1,2の人

項目	内容	件数	割合	点数	割合
1-5	重度意識障害(JCS100以上)				
1-4	重度意識障害(JCS30以上)				
1-3	意識障害(JCS 20, 10)				
1-5	過少ミナラル(余命1ヶ月以上)				
1-3	過少ミナラル(余命6ヶ月)				
1-5	腎不全(肌酐濃度、NH4Cl 120mg/d)				
1-4	腎不全(肌酐濃度、NH4Cl 100mg/d以上)				
1-5	GKD(クレアチニン 6mg/d以上)				
1-4	GKD(クレアチニン 4mg/d以上)				
1-5	喘息重症発作				
1-5	急性呼吸器障害(経管栄養)				
1-5	嘔吐吸引(1回/日以下)				
1-5	全廃手術後1ヶ月以内				
1-5	その他の感染症(CRP5以上、顆粒球減少、ウイルス陰性)				
1-5	胸水・心嚢液貯留				
1-5	栄養・栄養				
1-5	腸体外貯留(量)				
1-5	認知度(M)				
1-4	認知度(IV)				
1-3	認知度(III)				
1-5	自殺企図				
1-5	降圧性高血圧(治療にも関わらず日中最高血圧180mmHg以上を呈する例)				
1-5	心不全(高度非代償性)				
1-5	SAB、AVB(量)SSS				
1-5	塗薬(240)RonT、af (128 500/min以上)				
1-5	脱水(BUN 50mg/d以上)				
1-4	脱水(BUN 40mg/d以上)				
1-5	低栄養(AB 2.5g/d以下)				
1-4	低栄養(AB 3g/d以下)				
1-3	低栄養(AB 3.5g/d以下)				
1-5	Hb 7g/d以下				
1-4	Hb 8g/d以下				
1-3	Hb 9g/d以下				
1-5	BNP 1000以上				
1-4	BNP 500以上				
1-3	BNP 100以上				
1-5	血糖(随時血糖 200mg/d以上、HbA1c 8以上)				
1-4	血糖(随時血糖 150mg/d以上、HbA1c 7以上)				

## 第2回分科会(6月11日)資料の訂正について

○第2回分科会配付資料において、以下の2点について誤記があったので訂正する。

(1) 患者特性調査(病院、診療所)において、「脱水」と「頻回の嘔吐」のみでは医療区分1であるが、医療区分2と誤分類していたことが判明し、医療区分2から医療区分1に再分類した例が1%程度生じた(全病院集計で0.6%、共通病院集計で1.2%)。

(2) Q1に係る集計において、表中の記載位置が誤っていた(「褥瘡ハイリスク 分母の患者数」と「褥瘡ローリスク 分母の患者数」が入れ替わっていた)。但し、Q1の算出結果には変化を生じない。

○訂正事項の詳細は、次ページ以降を参照。

## 後期高齢者特定入院基本料のいわゆる「除外対象」の患者に関する集計

### 1. 方法

社会医療診療行為別調査(平成19年6月審査分)を用い、後期高齢者特定入院基本料のいわゆる「除外対象」の患者に関し、レセプト件数及び一日当たり点数の集計を行った。

### 2. 結果

○当該月の初日より入院期間が90日を超えている75歳以上の患者について、当該月中一貫して一般病棟入院基本料(老人特定入院基本料を除く)を算定しているレセプトは36,352件であった。

○上記レセプトにおける1日当たり点数は2,070点であった。

## 1. 「診療組 慢-1」：平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査集計結果 患者特性調査(病院)

番号	訂正箇所	訂正内容
1	P1~24 表 平成20年度調査の医療区分1及び2のn数	平成20年度調査の「全病院比較」及び「共通病院比較」の医療区分1及び2(図表1~34)のn数の訂正。  【誤】 図表1 医療区分1 (n=2,453)、医療区分2 (n=3,826) 図表2 医療区分1 (n= 492)、医療区分2 (n= 960) 図表3、5、7、9、15、17、18、21、22、25、26、31、32 医療区分1 (n=2,498)、医療区分2 (n=3,865) 図表4、6、8、10、16、19、20、23、24、28、29、33、34 医療区分1 (n= 496)、医療区分2 (n= 961) 図表11 医療区分1 (n= 493)、医療区分2 (n= 325) 図表12 医療区分1 (n= 89)、医療区分2 (n= 96) 図表13 医療区分1 (n= 789)、医療区分2 (n=1,052) 図表14 医療区分1 (n= 175)、医療区分2 (n= 278) 図表27 医療区分1 (n=1,505)、医療区分2 (n=2,454) 図表30 医療区分1 (n= 406)、医療区分2 (n= 786)  【正】 図表1 医療区分1 (n=2,498)、医療区分2 (n=3,781) 図表2 医療区分1 (n= 515)、医療区分2 (n= 937) 図表3、5、7、9、15、17、18、21、22、25、26、31、32 医療区分1 (n=2,543)、医療区分2 (n=3,820) 図表4、6、8、10、16、19、20、23、24、28、29、33、34 医療区分1 (n= 515)、医療区分2 (n= 937)

図表 11  
医療区分 1 (n= 503)、医療区分 2 (n= 315)

図表 12  
医療区分 1 (n= 93)、医療区分 2 (n= 92)

図表 13  
医療区分 1 (n= 805)、医療区分 2 (n=1,036)

図表 14  
医療区分 1 (n= 186)、医療区分 2 (n= 267)

図表 27  
医療区分 1 (n=1,530)、医療区分 2 (n=2,429)

図表 30  
医療区分 1 (n= 421)、医療区分 2 (n= 771)

【誤】

【図表 1】 【全病院】

	平成 20 年度調査			
	医療区分 1 (n=2,453)	医療区分 2 (n=3,826)	医療区分 3 (n=1,550)	合計 (n=7,829)
ADL区分 3	10.3%	26.6%	15.0%	51.8%
ADL区分 2	9.3%	13.3%	3.3%	25.8%
ADL区分 1	11.8%	9.0%	1.5%	22.4%
全体	31.3%	48.9%	19.8%	100.0%
無回答 (n)	(45)	(39)	(13)	(97)

【図表 2】 【共通病院】

	平成 20 年度調査			
	医療区分 1 (n=492)	医療区分 2 (n=960)	医療区分 3 (n=477)	合計 (n=1,929)
ADL区分 3	9.7%	28.1%	19.0%	56.9%
ADL区分 2	7.4%	13.8%	4.0%	25.2%
ADL区分 1	8.3%	7.8%	1.7%	17.9%
全体	25.5%	49.8%	24.7%	100.0%
無回答 (n)	(4)	(1)	(2)	(7)

3

【正】

【図表 1】 【全病院】

	平成 20 年度調査			
	医療区分 1 (n=2,498)	医療区分 2 (n=3,781)	医療区分 3 (n=1,550)	合計 (n=7,829)
ADL区分 3	10.4%	26.4%	15.0%	51.8%
ADL区分 2	9.5%	13.0%	3.3%	25.8%
ADL区分 1	11.9%	8.9%	1.5%	22.4%
全体	31.9%	48.3%	19.8%	100.0%
無回答 (n)	(45)	(39)	(13)	(97)

【図表 2】 【共通病院】

	平成 20 年度調査			
	医療区分 1 (n=515)	医療区分 2 (n=937)	医療区分 3 (n=477)	合計 (n=1,929)
ADL区分 3	10.0%	27.9%	19.0%	56.9%
ADL区分 2	7.9%	13.3%	4.0%	25.2%
ADL区分 1	8.8%	7.4%	1.7%	17.9%
全体	26.7%	48.6%	24.7%	100.0%
無回答 (n)	(4)	(1)	(2)	(7)

※ 以下、訂正図表は、別紙をご参照ください。

2 P25 表  
平成 20 年度患者特性調査 Q1 算出結果の分母の患者数

平成 20 年度調査の患者特性調査 Q1 算出結果 (図表 35) の分母の患者数の訂正。

【誤】  
褥瘡ハイリスク 分母の患者数 432  
褥瘡ローリスク 分母の患者数 1,615

【正】  
褥瘡ハイリスク 分母の患者数 1,615  
褥瘡ローリスク 分母の患者数 432

4

2. 「診調組 慢一1」: 平成 20 年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査  
集計結果 患者特性調査 (診療所)

番号	訂正箇所	訂正内容
1	P1~8 表 平成 20 年度調査の医療区分 1 及び 2 の n 数	平成 20 年度調査の医療区分 1 及び 2 の n 数の訂正。  【誤】 図表 1 医療区分 1 (n=342)、医療区分 2 (n=381) 図表 2、3、4、5、8、9、10、11、12、13、14、16 医療区分 1 (n=361)、医療区分 2 (n=385) 図表 6 医療区分 1 (n=103)、医療区分 2 (n= 77) 図表 7 医療区分 1 (n= 88)、医療区分 2 (n= 76) 図表 15 医療区分 1 (n=143)、医療区分 2 (n=199)  【正】 図表 1 医療区分 1 (n=352)、医療区分 2 (n=371) 図表 2、3、4、5、8、9、10、11、12、13、14、16 医療区分 1 (n=371)、医療区分 2 (n=375) 図表 6 医療区分 1 (n=104)、医療区分 2 (n= 76) 図表 7 医療区分 1 (n= 92)、医療区分 2 (n= 72) 図表 15 医療区分 1 (n=146)、医療区分 2 (n=196)

5

【誤】

【図表 1】 【診療所】

	平成 20 年度調査			
	医療区分 1 (n=342)	医療区分 2 (n=381)	医療区分 3 (n=51)	合計 (n=774)
ADL区分 3	5.7%	14.5%	3.6%	23.8%
ADL区分 2	8.9%	14.2%	1.0%	24.2%
ADL区分 1	29.6%	20.5%	1.9%	52.1%
全体	44.2%	49.2%	6.6%	100.0%
無回答 (n)	(19)	(4)	(0)	(23)

【正】

【図表 1】 【診療所】

	平成 20 年度調査			
	医療区分 1 (n=352)	医療区分 2 (n=371)	医療区分 3 (n=51)	合計 (n=774)
ADL区分 3	6.2%	14.0%	3.6%	23.8%
ADL区分 2	9.3%	13.8%	1.0%	24.2%
ADL区分 1	30.0%	20.2%	1.9%	52.1%
全体	45.5%	47.9%	6.6%	100.0%
無回答 (n)	(19)	(4)	(0)	(23)

※ 以下、訂正図表は、別紙をご参照ください。

以上

6

平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査に係る  
第3回分科会での指摘事項について

平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査  
《レセプト調査(病院) 集計結果》

集計対象:平成18年度調査と平成20年度調査の共通病院(11病院)

1 レセプト調査(病院)の集計件数

■レセプト調査(病院)における収集レセプト件数 [図表1]

	病院(医療療養病棟) レセプト件数	病院(医療療養病棟) レセプト算定日数
平成20年度調査	834	22,811
平成18年度(11病院)	645	17,851

※平成20年度調査では、患者特性調査を実施した病棟(医療療養病棟)の1ヶ月分(平成21年1月分)のレセプトコピーを収集した。平成18年度調査では、タイムスタディ調査・患者特性調査を実施した病棟(医療療養病棟)の1ヶ月分(平成18年11月分)のレセプトコピーを収集した。

2 医療療養病棟における医療区分別・ADL区分別患者分類(5区分)の状況

■平成20年度レセプト調査(病院) [図表2]

	平成20年度			平成18年度		
	医療区分1	医療区分2	医療区分3	医療区分1	医療区分2	医療区分3
ADL区分3	5.6%	44.6%	31.1%	6.4%	30.5%	37.7%
ADL区分2	9.9%			20.1%		
ADL区分1		8.7%			5.3%	
計	15.5%	53.3%	31.1%	26.5%	35.8%	37.7%

※平成20年度は平成21年1月分、平成18年度は平成18年11月分のレセプトの算定実日数による構成比。

1	レセプト調査についても共通病院のデータを出してほしい。	資料「慢-8」
2	レセプト調査、コスト調査についても、級地別集計をしてほしい。	資料「慢-9」 資料「慢-10」
3	コスト調査の医療区分ごと収入において、9区分それぞれについて出来高・リハビリ分をレセプト調査から算出してほしい。	資料「慢-11」

3 医療療養病棟における患者1人1日当たり収入金額

[図表3]

単位:円

	入院基本料	入院基本料等加算	出来高部分	リハビリテーション等	レセプト請求金額	入院時食事療養費を加えた場合の収入
平成20年度調査	13,431	1,608	625	1,374	17,037	18,957
平成18年度調査(11病院)	13,756	1,463	572	879	16,670	18,590

※ 入院時食事療養費は、1食につき640円とし、1日当たり1,920円とした。

※ 上記の収入には、差額ベッド代等、保険外の収入は含まれていない。

【共通病院】

【全病院・級地別】

平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査  
《レセプト調査(病院) 集計結果》

1 レセプト調査(病院)の集計件数

■レセプト調査(病院)における収集レセプト件数 [図表1]

	病院(医療療養病棟) レセプト件数	病院(医療療養病棟) レセプト算定日数
1-6級地(23病院)	1,051	32,075
	1,285	38,362

※患者特性調査を実施した病棟(医療療養病棟)の1ヶ月分(平成21年1月分)のレセプトコピーを収集した。

2 医療療養病棟における医療区分別・ADL区分別患者分類(5区分)の状況

■平成20年度レセプト調査(病院) [図表2]

	1-6級地の病院			計	計	計
	医療区分1	医療区分2	医療区分3			
ADL区分3	6.2%	48.9%	29.1%	9.3%	40.8%	22.5%
ADL区分2	7.0%			19.1%		
ADL区分1		8.8%			8.3%	
計	13.2%	57.7%	29.1%	28.3%	49.1%	22.5%

※平成21年1月分のレセプトの算定実日数による構成比。

3 医療療養病棟における患者1人1日当たり収入金額

【図表3】

	入院基本料	入院基本料等加算	出床高部分	リハビリテーション等	レセプト請求金額	入院時食事療養費を加えた場合の収入
1-6級地 (16病院)	13,377	1,452	784	1,044	16,657	18,577
	12,440	1,621	1,036	755	15,852	17,772

※ 入院時食事療養費は、1食につき640円とし、1日当たり1,920円とした。  
 ※ 上記の収入には、差額ベッド代等、保険外の収入は含まれていない。

平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査  
 (コスト調査(病院) 集計結果)

1 医療療養病棟における患者1人1日当り費用の算定

■医療療養病棟(平成20年度44病院)における級地区別患者1人1日当り費用

【図表1】 (単位:円/人)

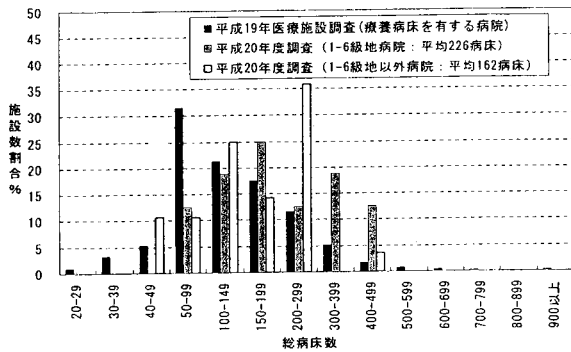
地域区分	人件費	材料費	委託費	設備関係費	研究・研修費	経費	その他	合計費用
1-6級地 (16病院)	10,916	2,202	1,236	1,740	48	1,524	460	18,126
	60.2%	12.1%	6.8%	9.6%	0.3%	8.4%	2.5%	100.0%
	10,798	1,704	1,492	1,743	53	1,529	193	17,512
	61.7%	9.7%	8.5%	10.0%	0.3%	8.7%	1.1%	100.0%

※ 平成20年度の「コスト調査」結果に基づき費用算定を行った。

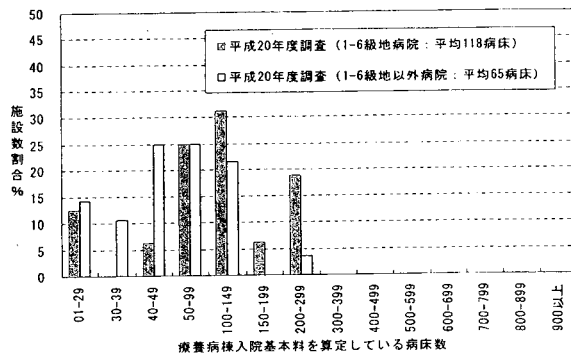
<備考>

- ・「人件費」: 給料、賞与、賞与引当金繰入額、退職給与費用など(病院長、役員含む)
- ・「材料費」: 医薬品費、診療材料費、医療消耗器具備品費、給食用材料費
- ・「委託費」: 検査委託費、給食委託費、寝具委託費など
- ・「設備関係費」: 減価償却費、地代家賃、修繕費など
- ・「研究・研修費」: 研究費、研修費
- ・「経費」: 光熱水費、福利厚生費、旅費交通費、職員被服費、通信費など
- ・「その他」: 控除対象外消費税等負担額、本部費配賦額

■(参考)コスト調査対象病院の総病床規模別施設数割合 【図表2】  
 (平成20年度 1-6級地 16病院、その他の地域 28病院)



■(参考)コスト調査対象病院の療養病棟病床規模別施設数割合 【図表3】  
 (平成20年度 1-6級地 16病院、その他の地域 28病院)



2 職種別人件費重み付けケア時間の算定

職種別直接ケア時間(平成18年度)に職種別の賃金の相対比(平成20年度 1-6級地、その他の地域)をそれぞれ乗じて職種別人件費の重み付けケア時間を算出した。

■職種別直接ケア時間(平成18年度調査) 【図表4】

患者分類	平成18年度						(参考)
	患者1人1日当り職種別直接ケア時間(分)						
	合計	医師	看護師	准看護師	看護補助者	その他職種	
患者3 ADL3	207.9	7.8	63.5	60.4	67.4	8.9	6.2
患者3 ADL2	200.0	7.5	61.2	47.0	75.2	9.0	7.3
患者3 ADL1	131.8	6.0	36.6	29.0	52.1	8.1	6.7
患者2 ADL3	174.3	4.4	49.3	44.1	69.9	6.7	8.7
患者2 ADL2	167.4	4.4	38.8	32.3	84.0	7.9	20.3
患者2 ADL1	118.5	4.9	29.9	25.6	48.9	9.2	14.6
患者1 ADL3	169.0	3.9	41.3	37.7	79.5	6.6	9.7
患者1 ADL2	143.7	3.9	33.1	23.4	75.6	7.7	20.0
患者1 ADL1	99.6	3.7	23.9	18.5	46.3	7.2	16.6
全体	162.5	5.0	43.8	38.1	67.9	7.7	12.3

■職種別賃金(平成20年度調査 1-6級地、その他の地域) 【図表5】

職種	1-6級地		相対比	賃金(円/時間)	相対比
	賃金(円/時間)	相対比			
医師	7,828円	3.16	7,667円	3.38	
看護師	2,479円	1.00	2,270円	1.00	
准看護師	2,339円	0.94	1,833円	0.81	
看護補助者	1,503円	0.61	1,382円	0.61	
リハスタッフ(PT, OT, ST)	2,072円	0.87	1,984円	0.89	
その他職種(MSW, 薬剤師, 栄養士, 他)	2,158円	0.84	2,018円	0.87	

※ 職種別人件費については、一般病床を有しない病院(平成20年度 1-6級地11病院、1-6級地以外14病院)に基づいて算定を行った。  
 ※ 平成20年10月1ヶ月のデータに基づくもの。

■職種別人件費重み付けケア時間

【図表6】

	平成20年度			
	医療区分1	医療区分2	医療区分3	計
ADL区分3	143.1	152.9	193.6	164.2
ADL区分2	120.1	141.1	182.8	137.6
ADL区分1	87.3	107.2	121.6	98.3
計	114.2	141.6	187.1	143.3

■ケースミックス値の算定

【図表7】

	平成20年度			
	医療区分1	医療区分2	医療区分3	計
ADL区分3	0.999	1.067	1.352	1.146
ADL区分2	0.838	0.984	1.276	0.960
ADL区分1	0.609	0.748	0.849	0.686
計	0.797	0.988	1.306	1.000

※ 職種別人件費重み付けケア時間の平均値を1.0とした場合の患者分類毎の職種別人件費重み付けケア時間の相対値をケースミックス値とした。

3 患者分類(9区分)毎の患者1人1日当り費用の推計

医療療養病棟における1患者当りの費用を、患者の状態に応じて変化する変動費(人件費、材料費)と、患者の状態に依らず一定である固定費(委託費、設備関係費、経費等)に分け、患者分類(9区分)毎の患者1人1日当り費用を推計した。

人件費は、「重み付けケア時間算出対象人件費」と「リハスタッフの人件費」、「その他の人件費」の和として算出している。このうち、「その他人件費」については、平成18年度調査と同様に、患者分類に応じて変化する人件費と仮定して配賦した場合(費用差最大)と、患者分類と無関係に必要な人件費と仮定して配賦した場合(費用差最小)の2通りで推計した。

なお、「その他人件費」には、「重み付けケア時間算出対象人件費」の対象となる医師・看護師・看護補助者・薬剤師・MSW等の間接業務(直接ケア以外の業務)部分の人件費、中央診療部門の医療技術員の人件費、事務職員の人件費、技能労働員の人件費などが含まれる。

■医療療養病棟における患者1人1日当り費用推計(平均)

【図表8】

費用内訳	1-6級地		100%級地	
	1日当たり費用(円)	構成比%	1日当たり費用(円)	構成比%
人件費	13,118	72.4%	12,502	71.4%
「重み付けケア時間」算出対象人件費	5,919	32.7%	5,276	30.1%
リハスタッフの人件費	423	2.3%	405	2.3%
その他人件費	4,574	25.2%	5,117	29.2%
患者特性調査(レセプト調査)より算出した人件費	586	3.2%	586	3.3%
患者特性調査(レセプト調査)より算出した特定保険医療材料費	146	0.8%	146	0.8%
その他薬剤費(管理・消毒用品費等)	521	2.9%	269	1.5%
その他材料費(検査材料費・医薬品材料費等)	949	5.2%	703	4.0%
固定費用(委託費・設備関係費・経費等)	5,008	27.6%	5,010	28.6%
計	18,126	100.0%	17,512	100.0%

- ※ 重み付けケア時間算出対象人件費は、医師、看護師、看護補助者、薬剤師、MSW等の人件費とした(職種別ケア時間に職種別賃金をそれぞれ乗じて算出した)。
- ※ リハスタッフの人件費は、PT、OT、STの人件費とした(職種別ケア時間に職種別賃金を乗じて算出した)。
- ※ その他人件費は、「コスト調査」より把握された人件費全体から上記二つの人件費を除いた費用とした。
- ※ 患者特性調査より算出した薬剤費は、「患者特性調査」から算出した。平成20年度では、平成18年度「患者特性調査」から算出したものを平成20年度「レセプト調査(病院)」の患者分類別(9区分)患者構成比で調整して算出した。
- ※ 患者特性調査より算出した特定保険医療材料費は、「患者特性調査」から算出した。平成20年度では、平成18年度「患者特性調査」から算出したものを平成20年度「レセプト調査(病院)」の患者分類別(9区分)患者構成比で調整して算出した。
- ※ その他薬剤費は、「コスト調査」より把握された医薬品費全体から「患者特性調査より算出した薬剤費」を除いた費用とした(管理・消毒用品費等に相当)。
- ※ その他材料費は、「コスト調査」より把握された医薬品材料費全体から「患者特性調査より算出した特定保険医療材料費」を除いた費用とした(医療消耗器具備品費や給食材料費等)。
- ※ 固定費用は、委託費や設備関係費、経費など「コスト調査」より把握された固定費用とした。

■患者分類(9区分)毎の患者1人1日当り費用(費用差最大の場合)

【図表9】

	1-6級地				100%級地			
	医療区分1	医療区分2	医療区分3	計	医療区分1	医療区分2	医療区分3	計
ADL区分3	17,580	18,592	22,501	19,660	17,010	17,929	21,705	18,969
ADL区分2	16,248	18,122	21,741	17,796	15,780	17,552	21,062	17,254
ADL区分1	13,726	15,449	17,244	14,716	13,260	14,914	16,640	14,211
計	15,672	17,895	22,024	18,126	15,177	17,278	21,259	17,512

※ 「費用差最大」は、「その他人件費」を患者分類の状態に応じて変化する人件費とした場合の費用である。

■患者分類(9区分)毎の患者1人1日当り費用(費用差最小の場合)

【図表10】

	1-6級地				100%級地			
	医療区分1	医療区分2	医療区分3	計	医療区分1	医療区分2	医療区分3	計
ADL区分3	17,584	18,284	20,893	18,993	17,021	17,610	19,945	18,250
ADL区分2	16,987	18,193	20,480	17,979	16,564	17,606	19,635	17,427
ADL区分1	15,514	16,600	17,935	16,152	15,230	16,175	17,381	15,788
計	16,601	17,950	20,627	18,126	16,191	17,343	19,721	17,512

※ 「費用差最小」は、「その他人件費」をどの患者分類にも等しく按分した場合の費用である。

4 患者分類(9区分)毎の収入の推計

医療療養病棟の患者分類毎の収入(図表11)は、療養病棟入院基本料の所定点数(図表12)に、平成20年度レセプト調査から推計した入院基本料以外の収入(図表13)を加えて算出した。

■患者分類(9区分)毎の収入推計

【図表11】

	1-6級地			100%級地		
	医療区分1	医療区分2	医療区分3	医療区分1	医療区分2	医療区分3
ADL区分3	14,051	18,401	22,291	14,182	18,532	22,422
ADL区分2	12,701	17,181	21,062	12,832	17,312	21,062
ADL区分1	10,914	13,260	16,640	10,914	13,260	16,640

- ※ 1-6級地における入院基本料以外の収入は一律5,201円とした(平成20年度レセプト調査より)。
- ※ 1-6級地の入院基本料以外の収入5,201円の内訳は、入院基本料等加算1,452円、出来高部分784円、リハビリテーション1,044円、入院時食事療養費1,920円である。
- ※ その他の地域における入院基本料以外の収入は一律5,332円とした(平成20年度レセプト調査より)。
- ※ その他の地域の入院基本料以外の収入5,332円の内訳は、入院基本料等加算1,621円、出来高部分1,036円、リハビリテーション755円、入院時食事療養費1,920円である。

■患者分類(9区分)毎の入院基本料(療養病棟入院基本料の所定点数)

【図表12】

	1-6級地			100%級地		
	医療区分1	医療区分2	医療区分3	医療区分1	医療区分2	医療区分3
ADL区分3	8,850 (入院基本料D)	13,200 (入院基本料B)	17,090 (入院基本料A)	8,850	13,200	17,090
ADL区分2	7,500 (入院基本料E)	11,980 (入院基本料C)	15,788 (入院基本料F)	7,500	11,980	15,788

■患者分類(9区分)毎の入院基本料以外の患者1人1日当たり収入金額(レセプト調査より)

【図表13】

	100%級地					
	1-6級地(16病院)	100%級地(16病院)	100%級地(16病院)	100%級地(16病院)	100%級地(16病院)	100%級地(16病院)
1-6級地(16病院)	13,377	1,452	784	1,044	16,657	18,577
100%級地(16病院)	12,440	1,621	1,036	755	15,852	17,772

※ 入院時食事療養費は、1食につき640円とし、1日当たり1,920円とした。

※ 上記の収入には、差額ベッド代などの収入は含まれていない。

平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査  
（レセプト調査（病院）集計結果）

5 患者分類(9区分)毎の収入・費用差

レセプト調査を用いて推計した「収入」から、コスト調査を用いて算出した「費用」を差し引いて、収入・費用差を算出した。但し、「収入」の推計においては患者分類毎の相違を考慮していないことに留意する必要がある。

■患者分類(9区分)毎の収入・費用差(費用差最大の場合)---図表9と図表11の差

【図表14】

単位：円

	1-6 級地			収入	費用	差
	医療区分 1	医療区分 2	医療区分 3			
A/D1区分	-3,529	-192	-210	-2,829	605	718
A/D2区分	-3,547	278	550	-2,949	982	1,361
A/D3区分	-1,026	1,732	5,047	-428	2,398	5,782

※ 「費用差最大」は、「その他人件費」を患者分類の状態に応じて変化する人件費とした場合の費用である。

■患者分類(9区分)毎の収入・費用差(費用差最小の場合)---図表10と図表11の差

【図表15】

単位：円

	1-6 級地			収入	費用	差
	医療区分 1	医療区分 2	医療区分 3			
A/D1区分	-3,534	116	1,398	-2,840	924	2,479
A/D2区分	-4,287	207	1,811	-3,732	927	2,788
A/D3区分	-2,813	581	4,356	-2,397	1,138	5,041

※ 「費用差最小」は、「その他人件費」をどの患者分類にも等しく按分した場合の費用である。

1 患者分類(9区分)毎の収入の推計

医療療養病床の患者分類毎の収入(図表1)は、療養病棟入院基本料の所定点数(図表2)に、平成20年度レセプト調査から推計した入院基本料以外の収入(図表3)を加えて算出した。

■患者分類(9区分)毎の収入推計

【図表1】

	収入	費用	差
A/D1区分	13,622	17,816	21,702
A/D2区分	12,375	18,251	

※ 平成20年度及び平成18年度調査時における入院基本料以外の収入をレセプト調査より算定した。

■患者分類(9区分)毎の入院基本料(療養病棟入院基本料の所定点数)

【図表2】

単位：円

	収入	費用	差
A/D1区分	8,850 (入院基本料D)	13,200 (入院基本料B)	17,090 (入院基本料A)
A/D2区分	7,500 (入院基本料E)	11,980 (入院基本料C)	

【全病院・患者分類別収入】

診療組 横-12  
21. 7. 29

■患者分類(9区分)毎の入院基本料以外の患者1人1日当たり収入金額(レセプト調査より)

【図表3】

単位：円

	収入	費用	差	収入	費用	差
平成20年度調査 (66病院)	12,883	1,510	920	887	16,200	18,120
(再掲)入院基本料A	17,090	1,048	983	660	19,782	21,702
(再掲)入院基本料B	13,200	1,136	719	841	15,896	17,816
(再掲)入院基本料C	11,980	2,057	1,261	1,033	16,331	18,251
(再掲)入院基本料D	8,850	1,533	518	800	11,702	13,622
(再掲)入院基本料E	7,500	1,509	561	884	10,455	12,375
平成18年度調査 (69病院)	13,181	1,163	580	828	15,753	17,673
(再掲)入院基本料A	17,400	1,126	481	731	19,739	21,659
(再掲)入院基本料B	13,440	1,072	616	819	15,947	17,867
(再掲)入院基本料C	12,200	1,699	527	972	15,398	17,318
(再掲)入院基本料D	8,850	1,133	303	961	11,247	13,167
(再掲)入院基本料E	7,640	1,236	801	905	10,582	12,502

※ 入院時食事療養費は、1食につき640円とし、1日当たり1,920円とした。  
※ 上記の収入には、差額ベッド代などの保険外の収入は含まれていない。

■患者分類(9区分)毎の患者構成比(レセプト調査より)

【図表4】

	平成20年度調査				平成18年度調査			
	医療区分 1	医療区分 2	医療区分 3	計	医療区分 1	医療区分 2	医療区分 3	計
A/D1区分	8.0	30.6	19.2	57.8	7.9	28.8	16.6	53.3
A/D2区分	6.5	15.8	3.8	26.1	10.0	12.3	2.9	25.2
A/D3区分	6.0	8.2	1.9	16.1	10.7	9.3	1.5	21.5
計	20.5	54.6	24.9	100.0	28.6	50.4	21.0	100.0

平成20年度一般病棟で提供される医療の実態調査の概要

1 目的

一般病棟入院基本料のうち、13対1入院基本料、15対1入院基本料を算定する病棟について、実態を調査し、診療報酬改定の検討資料とすることを目的とする。

2 調査項目及び調査内容

平成18年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査の方法を参考とし、医療機関の特性、職員業務量、患者構成、コストの変動等、一般病棟入院基本料のうち13対1入院基本料、15対1入院基本料を算定する医療機関の実態の調査を実施。  
調査施設数、調査内容については以下のとおり。

(1) 調査施設数(13対1入院基本料算定施設250施設、15対1入院基本料算定施設500施設)

(2) 調査内容

① レセプト調査

一般病棟入院基本料のうち13対1入院基本料、15対1入院基本料が算定されている入院患者を対象として、平成21年1月診療分の診療報酬明細書を用い、入院基本料・加算等算定状況、処置・リハビリテーション等の実施状況について調査を実施。

② 施設特性調査

平成21年3月1日時点で一般病棟入院基本料のうち13対1入院基本料又は15対1入院基本料を算定している保険医療機関を対象に、救急体制、職員配置の変動及び入院患者数、入院元・退院先、入院理由などの入院患者の状況について調査を実施。

③ 患者特性調査

平成21年3月1日時点で施設特性調査を行う医療機関に入院している患者に対し、年齢・入院期間・状態等の基本属性や、提供されている医療サービスの内容について調査を実施。

④ コスト調査

平成20年10月1ヶ月における一般病棟入院基本料のうち13対1入院基本料又は15対1入院基本料を算定している保険医療機関を対象に、調査対象医療機関の人件費、減価償却費、医薬品費、材料等の払出量等について調査を実施。



平成 20 年度

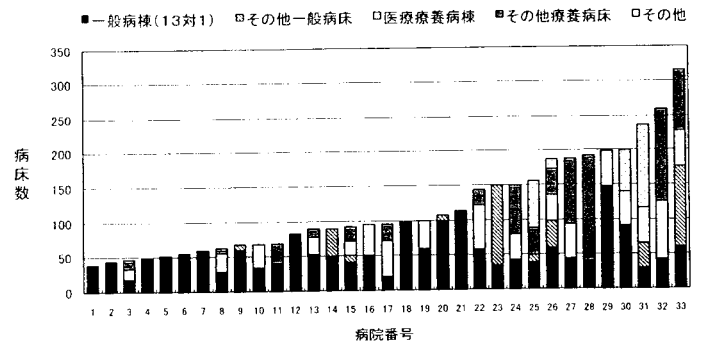
一般病棟で提供される医療の実態調査

集計結果

基本情報

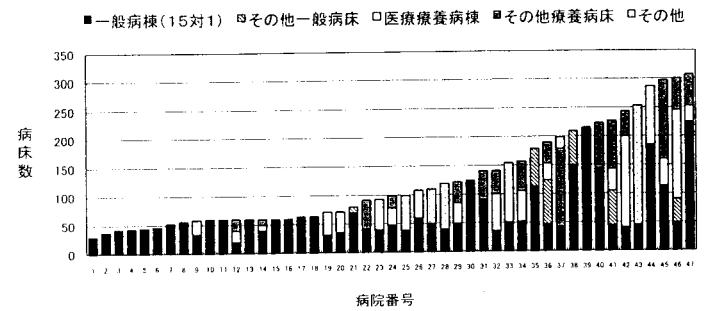
一般病棟(13対1)を有する病院の病床数および病床区分(n=33)

総病床数：平均 120 床、 一般病棟入院基本料算定病床数：平均 56 床



一般病棟(15対1)を有する病院の病床数および病床区分(n=47)

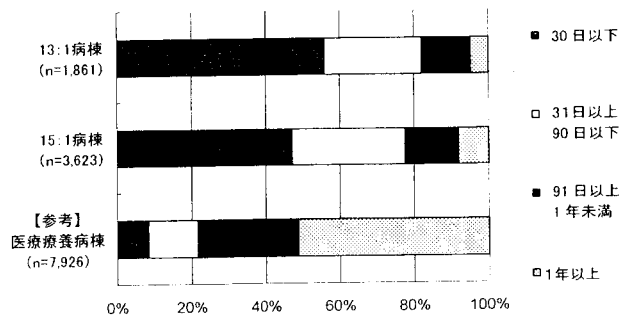
総病床数：平均 127 床、 一般病棟入院基本料算定病床数：平均 67 床



1 在院期間の状況

区分	13:1病棟 (n=1,861)		15:1病棟 (n=3,623)		【参考】 医療療養病棟 (n=7,926)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
30日以内	837	55.8%	1,594	47.1%	607	8.3%
31日以上 90日以下	395	26.3%	1,034	30.5%	985	13.4%
91日以上 1年未満	196	13.1%	483	14.3%	1,986	27.0%
1年以上	73	4.8%	276	8.1%	2,404	51.3%

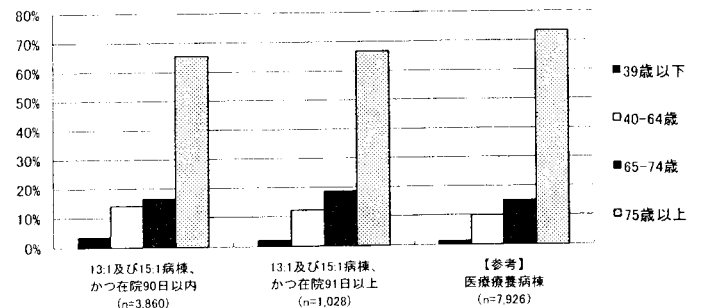
(注)1(1)は、一般病棟(13:1病棟、15:1病棟)が、医療療養病棟と比較して5%以上多いもの(5%以上少ないもの)



2 年齢構成の状況

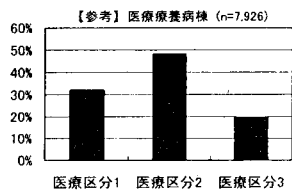
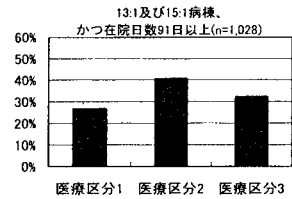
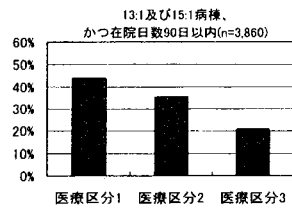
年齢区分	13:1及び15:1病棟 かつ在院90日以内 (n=3,860)		13:1及び15:1病棟 かつ在院91日以上 (n=1,028)		【参考】 医療療養病棟 (n=7,926)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
39歳以下	137	3.5%	21	2.0%	102	1.3%
40歳～64歳	543	14.1%	125	12.2%	783	9.9%
65歳～74歳	635	16.5%	192	18.7%	1,195	15.1%
75歳以上	2,529	65.5%	686	66.7%	5,812	73.3%

(注)1(1)は、一般病棟(90日以内、91日以上)が、医療療養病棟と比較して5%以上多いもの(5%以上少ないもの)



	①13及び15:11病棟、 かつ在院日数90日以内 (n=3,860)	②13及び15:11病棟、 かつ在院日数91日以上 (n=1,028)	③【参考】 医療療養病棟 (n=7,926)
医療区分1	1,695 43.9%	276 26.8%	2,543 32.1%
医療区分2	1,366 35.4%	420 40.9%	3,820 48.2%
医療区分3	799 20.7%	332 32.3%	1,563 19.7%

(注) ①(②)は、一般病棟(90日以内、91日以上)が、医療療養病棟と比較して5%以上多いもの(5%以上少ないもの)



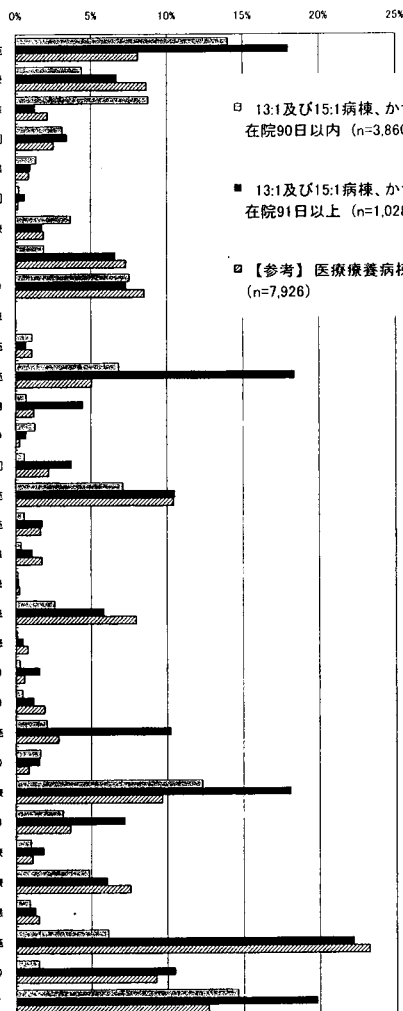
	①13及び15:11病棟、 かつ在院日数90日以内 (n=3,860)	②13及び15:11病棟、 かつ在院日数91日以上 (n=1,028)	③【参考】 医療療養病棟 (n=7,926)
24時間持続して点滴を実施	541 14.0%	185 18.0%	642 8.1%
尿路感染症に対する治療	170 4.4%	69 6.7%	685 8.6%
傷病等によりリハビリテーションを必要とする状態	338 8.8%	13 1.3%	169 2.1%
脱水に対する治療(×発熱)	120 3.1%	35 3.4%	200 2.5%
消化管等の体内から出血が反復継続している状態	52 1.3%	10 1.0%	67 0.8%
頻回の嘔吐に対する治療(×発熱)	9 0.2%	6 0.6%	14 0.2%
せん妄に対する治療	141 3.7%	18 1.8%	147 1.9%
経鼻胃管・胃導管等の経腸栄養が行われ、発熱又は嘔吐を伴う状態	72 1.9%	68 6.6%	578 7.3%
頻回の血糖検査を実施(1日3回以上)	290 7.5%	75 7.3%	673 8.5%
10 スモンに罹患	0 0.0%	0 0.0%	3 0.0%
11 医師及び看護師により、常時、監視・管理を実施	42 1.1%	7 0.7%	85 1.1%
12 中心静脈栄養を実施	264 6.8%	189 18.4%	400 5.0%
13 人工呼吸器を使用	27 0.7%	46 4.5%	94 1.2%
14 ドレーン法・胸腔腔の洗浄	49 1.3%	7 0.7%	21 0.3%
15 気管切開・気管内挿管の実施され、発熱を伴う状態	22 0.6%	38 3.7%	174 2.2%
16 酸素療法の実施	274 7.1%	108 10.5%	826 10.4%
17 感染隔離室での管理を実施	22 0.6%	18 1.8%	130 1.6%
18 筋ジストロフィー症・筋萎縮性側索硬化症に罹患	14 0.4%	11 1.1%	138 1.7%
19 多発性硬化症に罹患	6 0.2%	2 0.2%	19 0.2%
20 パーキンソン病関連疾患に罹患	100 2.6%	60 5.8%	629 7.9%
21 その他の難病に罹患	4 0.1%	5 0.5%	62 0.8%
22 脊髄損傷(頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに認められる)	11 0.3%	16 1.6%	45 0.6%
23 慢性閉塞性肺疾患(ニュー・ジョーンズ分類V度)	17 0.4%	12 1.2%	152 1.9%
24 透析を実施	80 2.1%	105 10.2%	226 2.9%
25 悪性腫瘍(疼痛コントロールが必要な場合に限り)	63 1.6%	16 1.6%	66 0.8%
26 肺炎に対する治療	475 12.3%	186 18.1%	766 9.7%
27 褥瘡に対する治療(2度以上または2箇所以上)	121 3.1%	74 7.2%	286 3.6%
28 末梢循環障害による下肢末端の開放創に対する治療	38 1.0%	19 1.8%	88 1.1%
29 うつ症状に対する治療	187 4.8%	62 6.0%	599 7.6%
30 他者に対する暴行が毎日認められる状態	35 0.9%	13 1.3%	120 1.5%
31 1日8回以上の喀痰吸引を実施	236 6.1%	228 22.2%	1,840 23.2%
32 気管切開・気管内挿管の実施(発熱を伴う場合を除く)	59 1.5%	108 10.5%	733 9.2%
33 創傷、皮膚潰瘍、下腿、足部の蜂巣炎、臍等の感染症に対する治療	565 14.6%	204 19.8%	1,005 12.7%

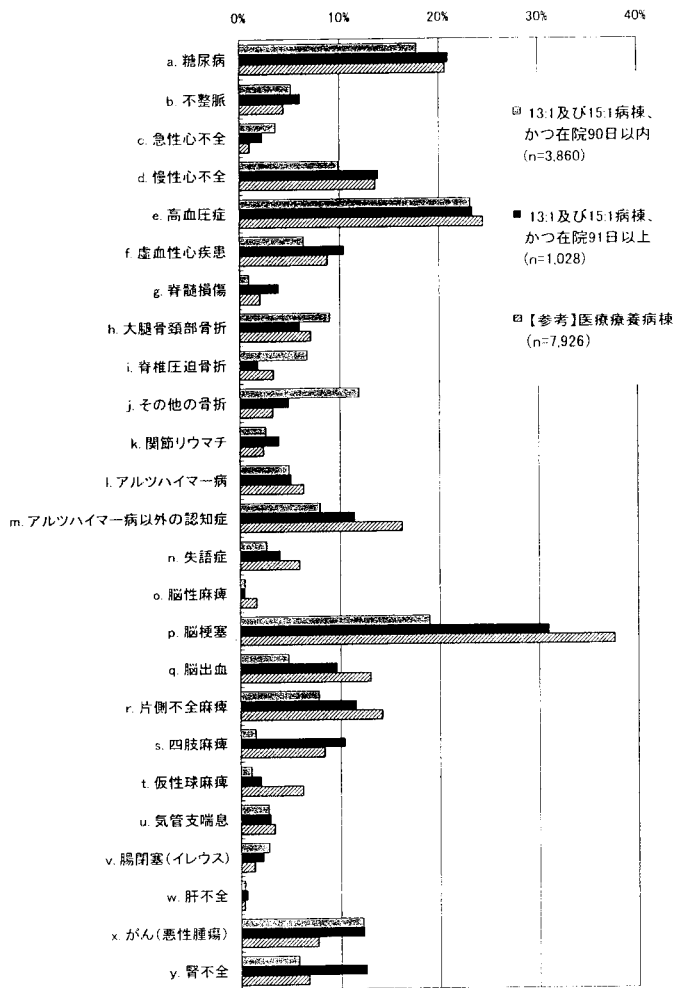
(注) ①(②)は、一般病棟(90日以内、91日以上)が、医療療養病棟と比較して5%以上多いもの(5%以上少ないもの)

5 その他の患者状態像(医療区分採用項目以外)

	①13及び15:11病棟、 かつ在院日数90日以内 (n=3,860)	②13及び15:11病棟、 かつ在院日数91日以上 (n=1,028)	③【参考】 医療療養病棟 (n=7,926)
a 糖尿病	573 17.8%	187 21.0%	1,461 20.6%
b 不整脈	165 5.1%	54 6.1%	307 4.3%
c 急性心不全	115 3.6%	20 2.2%	71 1.0%
d 慢性心不全	319 9.9%	124 13.9%	963 13.6%
e 高血圧症	747 23.2%	209 23.4%	1,736 24.5%
f 虚血性心疾患	206 6.4%	93 10.4%	623 8.8%
g 脊髄損傷	29 0.9%	34 3.8%	142 2.0%
h 大腿骨頸部骨折	290 9.0%	53 5.9%	504 7.1%
i 脊椎圧迫骨折	217 6.7%	16 1.8%	235 3.3%
j その他の骨折	383 11.9%	43 4.8%	227 3.2%
k 関節リウマチ	81 2.5%	34 3.8%	163 2.3%
l アルツハイマー病	156 4.8%	45 5.0%	447 6.3%
m アルツハイマー病以外の認知症	258 8.0%	102 11.4%	1,151 16.2%
n 失語症	83 2.6%	35 3.9%	417 5.9%
o 脳性麻痺	16 0.5%	4 0.4%	115 1.6%
p 脳梗塞	611 19.0%	276 30.9%	2,568 37.7%
q 脳出血	153 4.8%	86 9.6%	924 13.0%
r 片側不全麻痺	252 7.8%	103 11.5%	1,003 14.2%
s 四肢麻痺	48 1.5%	93 10.4%	595 8.4%
t 仮性球麻痺	35 1.1%	18 2.0%	442 6.2%
u 気管支喘息	89 2.8%	26 2.9%	237 3.3%
v 腸閉塞(イレウス)	90 2.8%	20 2.2%	97 1.4%
w 肝不全	14 0.4%	6 0.7%	27 0.4%
x がん(悪性腫瘍)	393 12.2%	110 12.3%	546 7.7%
y 腎不全	185 5.7%	112 12.6%	479 6.8%

(注) ①(②)は、一般病棟(90日以内、91日以上)が、医療療養病棟と比較して5%以上多いもの(5%以上少ないもの)





	13.1及び15.1病棟、かつ在院90日以内 (n=3,860)	13.1及び15.1病棟、かつ在院91日以上 (n=1,028)	【参考】医療療養病棟 (n=7,926)
検体検査(尿検査、血液検査等)	3,275 84.8%	1 869 84.5%	1 4,919 62.1%
エックス線単純撮影	2,853 73.9%	1 647 62.9%	1 2,582 32.6%
CT	1,330 34.5%	1 231 22.5%	1 1,009 12.7%

(注) 1(1)は、一般病棟(90日以内、91日以上)が、医療療養病棟と比較して5%以上多いもの(5%以上少ないもの)

